

作 況 情 報 (5月15日現在)

令和元年5月20日発行

○秋まき小麦 (きたほなみ)

地域名	栽培体系	草丈 cm	茎数 本/m ²	遅速	生育期進度 (幼穂形成期)	管内状況 本年の秋まき小麦は5月15日時点で約1,300本/m ² の茎数を確保されており、平年値よりもやや少ないものの過繁茂傾向となっております。 茎数が1,300本/m ² を超えている圃場については倒伏が懸念される為、倒伏軽減剤の施用をご検討下さい。
光珠内	慣行	30.9	1,304	+2	5月2日	
豊葦	慣行	32.5	1,321	+2	5月2日	
岩峰	慣行	28.4	1,304	+2	5月2日	
光珠内	大豆間作	35.2	1,188	±0	5月4日	
上美唄	大豆間作	33.7	1,486	±0	5月4日	
空知	慣行	36.6	1,586	+3	5月3日	
平年	慣行	29.8	1,589	-	5月4日	

○倒伏軽減剤について

薬剤名	使用時期	10a当たり		判断時期と茎数の目安
		薬量・倍率	散布水量	
サイコセルPRO	出穂前20～10日前 小麦の草丈40～60cm	200～300ml	100L	草丈40～60cm頃 1,300本/m ² 以上
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始	150～200ml	100L	草丈50～60cm頃 1,200本/m ² 以上
エスレル10	止葉期～出穂始	300～500倍	100L	草丈70～80cm頃 900本/m ² 以上
		75～125倍	25L	

※平年値：止葉期 5月28日 出穂始 6月3日

○初冬まき小麦 (春よ恋)

本年の初冬まき小麦は5月16日頃に幼穂形成期を迎えています。

幼穂形成期追肥については幼穂形成期から7～10日後に実施しましょう。幼穂形成期後すぐに追肥してしまうと節間伸長が伸びてしまい倒伏を助長させてしまいます。

追肥量については窒素で4kg/10a (目安) です。

JAみねのぶ	営農販売課
TEL 0126-67-2334	FAX 0126-67-2803